

掘り起こし跡



学生記者が探る、神保町・九段下の魅力

江戸東京ガイドの会とめぐるキャンバス周辺の史跡



「専修学校」の史跡「黒門」がゴール↑



散策団は
歴史の
コーナー



散策後のふりかえり（ガイドの仕事について学ぶレクチャー）↑



平将門ゆかりの築土神社の歴史を学ぶ

散策ルート



築土神社
940年創建で、
平将門公を祀る。
武勇長久の神社
として親しまれ、
日本武道館の氏
神でもある。



1780銘の狛犬
は区指定文化財。



ビル脇の鳥居を抜けると…



かつて灯台の役目も果たした九段坂の高燈籠

田安門の蝶番に刻まれた銘を読み解く↑

神田キャンパスで学ぶ3学部の学生が、「江戸東京ガイドの会」会長の星野淑子さんと副会長の小林英夫さんの案内で、神保町・九段下エリアの歴史と、外国人向けの東京ガイドのコツを学びました。

教科書で学んだ人物がこの地で生き、
活躍していた歴史を感じることができた。
(法学部2年飯山さん)



藩書調所跡



見知った事柄でも、特別に意識を向けたり見方を変えたりすることで、さまざまな気づきを得られると分かった。
(法学部2年藤解さん)

スタート

↓九段下交番の脇には…明治期の遺物「弥助砲」



大山弥助大隊が日清戦争
で使用した大砲の砲身



創建時の意匠が残る階段室↑



美しい帝冠様式の意匠を鑑賞↑



4階のギャラリーで歴史を学ぶ↑

2006年創設。
今の東京を、かつての
江戸文化を、楽しく案
内する老舗のボラン
ティア・ガイドの会です。

掘り起こし跡



大山弥助大隊が日清戦争
で使用した大砲の砲身



↑屋上庭園は
隠れたオアシス



次ページで
学生記者の
取材報告



牛ヶ淵越しに見る
旧九段会館

旧九段会館（登録有形文化財）軍人会館として1934年竣工しました。戦前は在郷軍人会が本部を設置したほか、主に軍の予備役などの訓練、宿泊に利用されました。米軍から返還後は名称を「九段会館」として宿泊施設やコンサートホールとして利用されました。2022年、旧九段会館の一部を保存・復元しながら、地上17階の高層建築と融合させた九段会館テラスが竣工しました。

VMG CAFE 九段会館テラス

九段会館(旧称:軍人会館)にあり、季節ごとの食事や軽食、アフタヌーンティーを提供しています
都会の中心部で、緑と自然光に包まれほっと一息つけるスポットです



フード/デザート/カフェメニュー



アフタヌーンティー



②1/4～4/30限定の「春景色の苺アフタヌーンティー」。シーズンごとにテーマが変わります。紅茶が9種類、コーヒーが5種類あり、カフェエフリースタイルのため好きなものを存分に楽しめます。



カラードリンク



④旬の食材を使用した期間限定のランチコースです。メニューは、シェフおすすめ前菜盛り合わせ3種、季節野菜のボタージュ、国産豚ロースのロースト、パティエ工特製デザートが楽しめます。



VMG CAFE 九段会館テラス Kudan Kaikan Terrace

東京都千代田区九段南1-6-5 九段会館テラス5F
0120-210-189 (VMG総合受付窓口)
<https://www.tokyokudan.com/cafe/>



奥田シェフ
菅原マネージャーに!



させていただきました！



シェフ
奥田泰大さん

Q1 メニューを決める際に気をつけている点をお聞きしてよろしいですか？
A1 まず、カフェであることと、九段会館が文化財であることを考慮し、便くなり過ぎず、かつクラシカルなお料理をコンセプトとしています。その上で旬の食材と季節のイベントを組み合わせたり、色合いにも気を使ってメニューを決定しています。

Q2 外国人のお客様に是非味わっていただきたいお料理はありますか？

A2 舉げるとするならば、ソースです。文化財であることなどを考慮し、「和」を感じていただけるよう工夫しています。味噌の風味や日本の食材が苦手な方でも食べやすいお味になるよう、フレンチベースに「和」を組み合わせているので、是非味わっていただきたいです。

ランチメニューは季節のお野菜に加え、柔らかく食べ応えのあるお肉とソースの組み合わせが絶品でした。アフタヌーンティーは、旬の食材を使用したセイボリー&スイーツなので、あますことなく旬の食材を堪能したい方におすすめです！私は、うぐいす豆と抹茶のスコーンと、ホワイトオーチャードが一番好みでした！



異文化3年 高木

Q1 サービスを提供する上で気をつけていることは何ですか？

A1 かっこいいサービスをするというよりは、マインドの部分を大切にしています。ホテルなどのアフタヌーンティーは、高級でなかなか入りづらいイメージがあるかもしれません、ここは「カフェ」なので、お客様には親近感を持っていただけるように努めています。

Q2 カラードリンクを提供の際、心がけていることはありますか？

A2 カラーは赤、オレンジ、黄色、黄緑、ピンク、青、紫、白、黒の9種類と、豊富にご用意しております。そのほかにもご要望の色があればできる範囲でお作りしています。以前お客様のご要望にお応えし、パステルグリーン色のドリンクを作ったことがあります。



マネージャー
菅原奈々さん

カラードリンクは種類豊富な上に、メニューにない色まで作ることができると知って驚きました。私がいたいたピンクローズソーダは、薔薇の風味が広がる華やかな味わいでした。また、一番奥の席からは真正面に日本武道館を見ることができます。桜の時期になると外国人のお客様も増えます。



日本語1年 水越



令和における神田神社(神田明神)の役割

清水祥彦氏(神田神社宮司)にうかがう

国際コミュニケーション学部の学生が「江戸の総鎮守」として知られる神田神社を訪りました。2030年に創建1300年を迎えるという神田神社では、「祈りの場の整備」「多様な交流の場の創出」「歴史と文化の継承」を柱として、さまざまな取り組みが進められています。

わたしたちを迎えてくださったのは、神田神社宮司である清水祥彦さんです。学生たちは、清水さんから、神田神社の歴史、江戸から東京にかけての時代の移り変わりと神田神社の役割について詳しい講話をいただきました。

さらに、わたしたちは現代における伝統文化の保全と活用について、清水さんにお話をうかがいました。



学生記者によるインタビュー

聞き手 異文化コミュニケーション学科4年 安岡美紀
異文化コミュニケーション学科3年 鈴木琉世

「祈りと祭りと縁の場」としての神田神社

安岡：神田に住む人にとって神田明神はどういった存在なのでしょうか。

清水さん：神田の人にとって、生まれる前から、お母さんのおなかにいるときから、安産祈願に神田明神に行きます。生まれた後、赤ちゃんを連れてお宮参りに神田明神に行きますし、子どもが7歳、5歳、3歳になると必ず神田明神に来て七五三をします。成人になったときも、同じように神田明神でお祓いを受けています。そして、結婚式です。二代、三代と、神田明神で結婚式をする、そういう神田の人たちたくさんいます。今度は、年をとってきて、厄祓いを受けるのもやはり神田明神です。人生の最後、亡くなられたときも、棺桶の上に神田祭の半纏をかけてお見送りをする、そういう伝統もあります。生まれてから、子供のときから、大人になっても、おじいちゃんになってしまっても、おばあちゃんになっても、神田祭を楽しみながら、人生の生きがいとして、神田明神を中心に、自分たちの人生が回っている、そんな関係性がある場所だと思います。

鈴木：令和という時代に合わせ、ここを「祈りと祭りと縁の場」にしていきたいとおっしゃっています。そういう取り組みに熱心に取り組んでおられる理由はどういったものでしょうか。

清水さん：皆さんも新型コロナウイルスの感染拡大という時期を経験しました。あのときたいへんな思いをされたと思います。人と人の接触ができなかったわけです。おそらく孤立して苦しんだ、そんな時期もあったと思います。友達同士であれ、親戚同士であれ、互いに十分なコミュニケーションを取りたい、その辛さを経験しました。今では、インターネットでコミュニケーションを済ませることができます、そうではなくて、お互いが、身体をもった人間同士が、心と身体をぶつけ合って触れ合っていく、お祭りはそういう場だと思います。お祭りでのコミュニケーション、それは神様と人間のあいだで、また、人と人のあいだで交わされるもの、そういう関わりを大事にしたい、そのように思っています。

神田神社宮司 清水祥彦さん

1616年、江戸城の表鬼門守護の場所にあたる現在の地に遷座した神田明神は、江戸時代を通じて「江戸総鎮守」として幕府から庶民にいたるまで広く尊崇されました。明治に入ると、1868年に准勅祭社に指定され、1872年に正式の社号が「神田神社」に改められました。



↑昭和天皇即位50年を記念して再建された隨神門

東京十社

明治元年、明治政府は東京近郊の十二社を、皇城(今の皇居)を守護する「准勅祭社(じゅんちょくさいしゃ)」に定めました。その後、1975年に昭和天皇即位50年を奉祝し、23区内の十社をめぐる「東京十社」(日枝神社、根津神社、芝大神宮、神田神社、白山神社、亀戸天神社、品川神社、富岡八幡宮、王子神社、氷川神社)が定められました。



日本人の心の物語を知ることができる場

安岡：近年、外国からの参拝者や観光客が増加していると伺いました。外国からいらっしゃる方に伝えたいメッセージは何でしょうか。

清水さん：ぜひ日本の文化の本質、日本人の心と神社、神道、また神話、そういうものを理解していただきたいなと思います。ただ単にビジャーとして観光だけではなく、日本人の心の物語を知る、文化そのものの深いところを神社で理解していただければ嬉しいです。

鈴木：私たちは大学で外国の言語や異文化を学んでいます。じっさいに留学をしてみて、価値観の違いを感じたり、対話やコミュニケーションの楽しさと難しさを実感しました。ただそれは、相手が外国人でなくとも、日本人同士であってもコミュニケーションは難しいと思うのですが、価値観の異なる人とのコミュニケーションの在り方についてお考えをお聞きかけください。

清水さん：たしかに価値観の違いによって摩擦が生じることはたくさんあると思います。でも神道の場合、いわゆるイデオロギー的なものが非常に希薄な文化なんですね。それをわれわれ日本人のほとんどの方が共有していると思います。どちらかに偏った考え方ではなく、つねに柔軟に、そして広い寛容性をもち、これから歩み、異文化との交流に臨んでいただければと思います。多様性と寛容性、それをつねに心に持ちながら対応していただければよろしいのではないかでしょうか。

安岡・鈴木：本日は貴重なお話をお聞かせください、ありがとうございました。



↑隨神門に入る前の手水舎



↑清水さんご厚意で昇殿参拝させていただきました。



↑多くの外国人訪問者を迎える